

# 2 学力向上アクションプラン

横浜市立八景小学校 令和2年度 学力向上アクションプラン

## 1 中期学校経営方針

### (1) 学校教育目標と教育課程全体で育成を目指す資質・能力

学校教育目標	教育課程全体で育成を目指す資質・能力
「心はひとつ 八景小!～自分らしさを発揮し、認め合い、思い合い、豊かに生きることができるようにします～」 【知】 考え、つくりだす子      【徳】 心豊かな子 【体】 心身ともに健やかな子      【公】 まちを愛する子 【開】 自らかかわりあう子	<協働して新しいものやことを つくりだす力> <自分らしく主体的に行動する力> <自他を認め、豊かに生きようとする力>

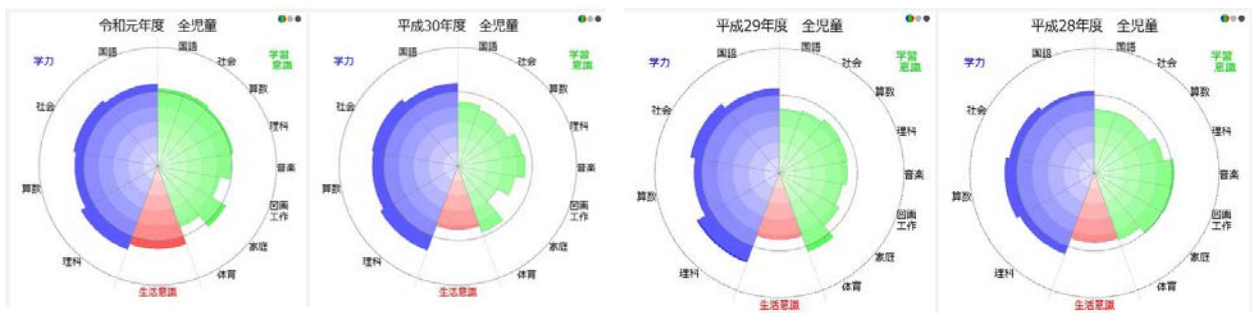
### (2) 中期取組目標

中期取組目標
○主体的に考え、行動することを通して、自己肯定感を高め、思いやりの心を育てます。 ・学習したことをもとに興味・関心を引き出し、さらに新しいものやことをつくりだそうとする姿勢や意欲を育てます。 ・たてわりの「なかよし活動」や学年学級の活動、地域との協働を通して、自己決定場面や課題解決場面を増やし、成功体験を積ませることにより自尊感情や協働の姿勢を育てます。 ・子ども人権会議「スマイル会」の活動やたてわり「なかよし活動」を通して、人と人との豊かなかかわりや自他を認め思い合う心の育成に努めます。

### (3) 学力向上に向けた重点取組分野・具体的取組

重点取組分野	具体的取組
生きて はたらく 知	①重点研究のテーマ「自己肯定感を育み学習意欲を高める授業づくり」の具現化に向けて、「学習が楽しい」「友達から認められて嬉しい」と感じられる授業展開を目指していく。②「プログラミング的思考」を中心に研究を進め、いきいきと伝え合う子の育成や主体的に学び合う姿を目指す。
担当 教務部	

## 2 横浜市学力・学習状況調査等からの実態把握



### ○学力の概要と要因の分析

例年全体的には、横浜市の平均の学力を上回っており、どの学年も特に偏りもなく概ね同じ傾向であり、おおよそ学力の割に学習意識や生活意識が低い傾向にあった。また、学習意識、生活意識は、学年に応じてばらつきが見られおり、学習意識においては、「勉強がすき」という児童の割合は、学年が高くなるに従い少なくなっていた。だが、徐々にその状況が改善され学力と同じくらい学習意識、生活意識が高くなってきた。

例年の傾向から、他者への意識が十分でなく、経験が十分に学習意識につながっていないことが考えられたため、「学習が楽しい」「友達から認められて嬉しい」と感じられる授業展開を目指し、興味・関心を高めるような学習活動の工夫してきた。また、個に応じた指導を実施し、授業展開においては子どもの意欲と考えを引き出せるよう各教科で工夫した。このことが状況の改善につながったことが考えられるので、今年度も継続していく。学習面の細かい項目に注目すると、生活にもとづいた学習内容については良好な傾向が見られたが、情報をもとにした予想、推論などは苦手としている傾向があった。そのため、生活と学習のつながりの上に、その経験や情報をもとに想像する、予想する、確かめてみる、ことなどを日々の学習活動を通して、経験させていく。

### 3 令和2年度 学年・教科等として育成を目指す具体的な資質・能力と具体的取組

	育成を目指す 具体化した資質・能力	具体的取組	
		前期	後期
1年	○人やものとかかわる活動や体験を通して、自分らしい方法で自分の思いや願いを伝えることができる	○生活科等で自分が体験したことや発見したこと、思ったことなどを、のびのびと表現できるようにする。様々な表現方法を取り入れながら、一人ひとりが自分なりの方法で伝えることができるようにする。	○友だちの意見を聞きながら、自分の考えと同じなのか、似ているのかなど比べながら、自分の思いを言葉で伝えることができるようにする。
2年		○ずずらん商店会や野菜名人との交流や活動を通して、気付いたことや思ったこと、感じたこと、考えたことを言葉や文、絵などで表し、伝え合う言語活動を繰り返し設定する。	○係活動や小グループでの話し合い活動の中で自分の意見を持ち、理由を添えて発言できるように指導する。 ○話し合いのルールを理解しながら、自分の考えを声の大きさや速さなどに注意して発言できるように指導する。
3年	○仲間と力を合わせて、課題解決に取り組むことを通して、相手の意見や考えの良さに気づき、思いを伝え合うことができる	○社会科・総合学習等において、子どもの興味・関心を軸として「つかむ」「調べる」「まとめる・深める」といった学習段階を展開していく。また、その一つ一つの段階での話し合い活動を充実させ、共に学び合う楽しさを実感できるようにする。(まち探検・称名寺を探検しよう等)	○問題解決学習を行ったことで、「まとめ・深めた」内容を、様々な方法で発信できるようにする。 ○自分の考えを明確にし、伝えることができるようにする。 ○自分の考え、内容と比較しながら、友達の発表を聞くようにする。
4年		○言語活動を通して、思考を巡らせたり、人に説明しようとしたりすることで学習意欲を高め、主体的に課題解決をすることができるようにする。また、話し合い活動を通して、一人ひとりが課題にかかわり、集団の中での考えを紡ぎ出すことができるようにする。	○事実や事象に基づいた自分の意見を明確に持ち、反対の意見を出したり、相手の考えを取り入れたりしながら、意見を調整し合うことができるようにする。
5年	○地域とのかかわりや人やものとかかわりを通して、自他を認め合い、自分の思いや願いを適切に表現して伝えることができる	○稲の栽培、間伐体験、アナゴ漁などの学習を通して様々な人々と出会い多面的な見方を育てる。	○話し合い活動の中で、相手の話を一般化したり、経験を加えて拡張したりしながら己の考えを深めていけるように指導する。
6年		○伝統文化、伝統芸能等の学習で、今まで身に付けた様々な力を発表等で効果的に表現できるようにする。 ○曖昧な点を明確にしたり、違った視点を打ち出したりしながら認め合って話し合うように指導する。	○関連付けたり、分類・整理したり、多面的に考えたりする学習と振り返りを計画的に位置付ける。
個別支援学級	○自分の思いや考えを伝えたり、相手の意図を受け止めたりすることができる	○個別の教育支援計画・個別の指導計画に基づき、話し言葉、表情、仕草、書き言葉等、発達段階に応じた適切なコミュニケーション手段を積極的に活用する場面を位置付ける。	○子どもの発達段階に応じて、各学年の取組を参考にし、必要な取組を行う。 ○子どもに応じた分かりやすい情報発信をするなど、言語環境の整備を行う。